

梅雨入りしたにも関わらず、雨が降らず、暑い毎日が続いています。

5月30日、市長が秘書係をとおして、みなさんに伝えたいことを話されましたのでご紹介します。

## 長久手市に係わるみんなで考えたいこと

先日、明治時代の法学者が、役人になる若者に対し、出世をしたいなら「広く浅く知識を身に付け、特殊な問題に興味を集中するな」「法規を盾に断る技術を習得しろ」と指南している文章を読みました。また、最近手にした他市の職員研修のレジメには、公務員の風潮として、「現状維持」「前例踏襲」「過剰防衛」があると書いてありました。

長い歴史の中で、世の中には、ずっと公務員叩きの風潮があり、公務員も「文句を言われるくらいなら、新しいことはやらない方がいい」という消極的な仕事のやり方になってしまいました。公務員全体をこのような消極的な体制に陥れてしまったのは、長い歴史の中での世間でもありますが、公務員の側から見ても、いつまでも「役人根性」「お役所仕事」などという言われ方のままでいいのでしょうか。

民間企業では、人材は会社の財産であり、社員にいかにかその気になって働いてもらうかが大きな課題です。市役所に置き換えてみれば、職員はまちの財産であり、職員一人一人には、仕事へのやる気を持って仕事に臨んでほしいと思います。住民の側も、その財産である職員を「現状維持」「前例踏襲」「過剰防衛」にしてしまってはだめだと思います。

「公務員は、私たちの税金で働いているのだから、もっとこうしてほ

しい」という要望の中に、地域で、自分たちでできることはないでしょうか。地域でできること、自分たちでできることまでを役所に渡した結果、職員の残業は増え、役所がもっと力を入れて行うべき仕事ができず、住民のみなさんと向き合いたいと思っても、その余裕すらなくなり、住民のみなさんからの話を過剰に突っぱねるようになっていきます。このような状況では、最初に述べた消極的な体制が延々と続いていく状況から、永遠に抜け出せなくなってしまいます。



市役所新人職員のリニモ研修の様子（平成 25 年 5 月）



ワールドカフェ方式で「まちづくりに必要なことは？」について話し合った「まちづくり講演会」（平成 25 年 3 月開催）

今、私は、「新しいまちのかたち」を作ろうとしています。みんなで手作りの地域福祉をやりたいと考えています。

新しい取り組みを始めると、改善点が見つかり、それを見直し、ときには失敗することもあるでしょう。ところが今は、最初から完璧を求められ、改善したり失敗したりすると、「一体どうなっているんだ」と言われてしまいます。

これからの50年は、人口が減り、山頂から山を下りていく、ゴールが麓の360度に広がる時代です。何が正解か誰にもわかりません。だからこそ、前例踏襲ではなく、裾野に広がるゴールに向かって新しいことに取り組み、それを応援できる風潮を作っていきたいと考えます。

「新しいまちのかたち」は始まったばかりです。役所だけでなく、市民のみなさんと一緒に取り組むことは、なかなか前に進まなかったり、やり直しをしたりすることもあるでしょう。それでも、その新しい取り組みを評価するまちにしていきませんか。新しいことを住民のみなさんと、職員が一緒になって、それぞれが役割を持って取り組み、住民のみなさんにも、「まち(M)は自分(J)で守る(M)」というMJMの精神でやってほしいと思っています。

私はいつも職員に、「まちに出て課題を見つけよう」「解決策を見つけるために視察に行って勉強しよう」「職員だけでなく、住民のみなさんにも視察に行ってもらってください」と言っています。先日も、民生委員のみなさんや自治会連合会・区長会のみなさんが、県外に視察に行かれ、大いに刺激をもらって自分たちの活動に活かそうとされています。住民も職員も、勉強して力をつけることが、後々のまちの財産になっていくと思います。



文化の家をより身近にするために話し合うプロジェクト  
「第1回しゃべり場」（平成 25 年 5 月開催）

今の世の中の有り様を見ていると、失敗を許さぬ社会であり、この世の中が、未来を担う子どもたちを締め付けていると感じます。山の頂上から下っていく時代に向かって、子どもたちがおおらかに過ごせるような世の中に変えていきたいと思いませんか。

すぐに全部のことを変えるのは難しいですが、後ろ向きから前向きに変わるだけでも、そういう意識を持つだけでも変わると思います。そのためにも、失敗してもいい、遠回りでもいい、わいわいガヤガヤとみんなで意見を言い合いながら、自分たちのことは自分たちでやる、自分たちでまちを作っていくという意識を育て、長久手に係わるみんなで、長久手のまちづくりについて考えていきたいと思えます。